

---

# 苫小牧市立病院新改革プラン自己評価

---

令和 2 年 9 月

苫小牧市立病院



【目 次】



<b>苫小牧市立病院新改革プラン評価基準表</b> . . . . .	<b>1</b>
<b>苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅰ</b> . . . . .	<b>2</b>
【医療機能等指標に係る項目】 . . . . .	2
【収支改善に係る項目】 . . . . .	3
【経費削減に係る項目】 . . . . .	4
【収入確保に係る項目】 . . . . .	5
【経営の安定化に係る項目】 . . . . .	6
<b>苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ</b> . . . . .	<b>7</b>
【医療従事者の確保・育成】 . . . . .	7
【収入増加（維持）への対策】 . . . . .	9
【経費削減（抑制）への対策】 . . . . .	10
【その他】 . . . . .	11
<b>苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅲ</b> . . . . .	<b>12</b>
【毎年度の収支計画】 . . . . .	12

## 苫小牧市立病院新改革プラン評価基準表

新改革プランの進捗状況に対する評価は、A～Eの5段階評価で、それぞれの評価基準は次のとおりです。

評価	評価基準
A	プランの目標値を余裕をもって達成し、ある程度の付加価値が生じた。
B	プランの目標値は達成した。
C	プランの目標達成に向けて取組みはしているが、現状未達成である。
D	プランの目標達成に向けて取組めていない。
E	検討して（されて）いない。
—	評価対象外

# 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【医療機能等指標に係る項目】

単位：人、件

項番	項目	元年度 目標値	元年度 実績値	自己評価・分析																					
				評価	コメント																				
1	救急患者数	4,500	5,159	A	<p>当圏域で一次救急を担う「夜間・休日急病センター」と、輪番制で二次救急を担う当院・王子総合病院の救急患者数の合計は、30年度と比較して1,780人減少しています。</p> <p>当院は、30年度と比較して505人増加して5,159人となり、目標値を上回ることができました。</p> <p>また、一次、二次救急のすみ分けについても、引続き良好に保たれています。</p> <p>※当圏域の救急患者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立</td> <td>4,654人</td> <td>5,159人</td> <td>505人</td> </tr> <tr> <td>王子</td> <td>5,812人</td> <td>6,103人</td> <td>291人</td> </tr> <tr> <td>救急センター</td> <td>18,714人</td> <td>16,138人</td> <td>△2,576人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>29,180人</td> <td>27,400人</td> <td>△1,780人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】</p> <p>一次救急～夜間・休日急病センターや休日当番の医療機関などによって行われる入院や手術を伴わない医療</p> <p>二次救急～入院や手術を要する症例に対する医療</p>		30年度	元年度	増減	市立	4,654人	5,159人	505人	王子	5,812人	6,103人	291人	救急センター	18,714人	16,138人	△2,576人	合計	29,180人	27,400人	△1,780人
	30年度	元年度	増減																						
市立	4,654人	5,159人	505人																						
王子	5,812人	6,103人	291人																						
救急センター	18,714人	16,138人	△2,576人																						
合計	29,180人	27,400人	△1,780人																						
2	手術件数	2,500	2,590	B	<p>眼科医師の退職により、眼科の手術件数が減少する一方で、手術支援ロボット（ダビンチ）の導入効果により、泌尿器科の手術件数が増加し、目標値を90件上回ることができました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>2,511件</td> <td>2,590件</td> <td>79件</td> </tr> </tbody> </table>		30年度	元年度	増減		2,511件	2,590件	79件												
	30年度	元年度	増減																						
	2,511件	2,590件	79件																						
3	紹介患者数	10,000	8,995	C	<p>医療機関訪問の拡充などにより、30年度と比較して237人増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により2月、3月の減少が影響し、目標値を下回る結果となりました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>8,758人</td> <td>8,995人</td> <td>237人</td> </tr> </tbody> </table>		30年度	元年度	増減		8,758人	8,995人	237人												
	30年度	元年度	増減																						
	8,758人	8,995人	237人																						

# 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【収支改善に係る項目】

単位：%

項番	項目	元年度 目標値	元年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
4	経常収支比率  ※算出式 $\frac{(\text{医業収益} + \text{医業外収益}) \times 100}{(\text{医業費用} + \text{医業外費用})}$	99.9	96.6	C	医業収益のうち入院収益が目標値より大幅に減少したことにより、経常収支比率は、目標値を3.3%下回る結果となりました。  【参考】 経常収益 = 医業収益 + 医業外収益 経常費用 = 医業費用 + 医業外費用 経常収支 = 経常収益 - 経常費用
5	医業収支比率  ※算出式 $\frac{\text{医業収益} \times 100}{\text{医業費用}}$	93.1	88.0	C	医業費用は目標値を下回ることができたが、医業収益のうち入院収益が目標値より大幅に減少したことにより、医業収支比率は、目標値を5.1%下回る結果となりました。  【参考】 医業収支 = 医業収益 - 医業費用
6	資金不足比率  ※算出式 $\frac{\text{資金不足額}}{\text{事業規模}}$	7.2	14.2	C	経常収支の悪化により、企業債償還金の財源が確保できず、資金不足額が増加し、目標値を7.0%上回る結果となりました。  【参考】 資金不足額 = (流動負債 + 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高 - 流動資産) - 解消可能資金不足額  事業の規模 = 医業収益の額 - 受託工事収益の額

# 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【経費削減に係る項目】

単位：%

項番	項目	元年度 目標値	元年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
7	職員給与比率 ※算出式 $\frac{\text{職員給与費} \times 100}{\text{医業収益}}$	52.0	54.4	C	職員給与費は賃金の減少等により目標値を下回ることができたが、医業収益が減少したことにより、目標値を2.4%上回る結果となりました。
8	材料費比率 ※算出式 $\frac{\text{材料費} \times 100}{\text{医業収益}}$	21.8	22.3	C	材料費は薬品費・診療材料費の減少により目標値を下回ることができたが、医業収益が減少したことにより、目標値を0.5%上回る結果となりました。
9	後発医薬品 (ジェネリック)使用割合 ※算出式 $\frac{\text{後発医薬品数} \times 100}{(\text{後発医薬品のある先発医薬品数} + \text{後発医薬品数})}$	79.0	97.1	A	これまでの後発薬品使用促進の取組により、97.1%となり目標値を大幅に上回ることができました。

# 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【収入確保に係る項目】

単位：％、円

項番	項目	元年度 目標値	元年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
10	病床利用率 ※算出式 $\frac{\text{延入院患者数} \times 100}{(\text{稼働病床数} \times \text{実日数})}$	79.0	72.1	C	医師の異動により入院患者の受け入れを一部制限したことや、増加が見込まれる冬季に患者数が減少したことにより、目標値を6.9%下回る結果となりました。
11	入院単価 ※算出式 $\frac{\text{入院収益}}{\text{延入院患者数}}$	58,700	57,238	C	経過観察を要する患者の受け入れなど幅広く患者を受けれたことにより入院単価の低い患者が増えたことや、高額な化学療法（注射）の件数が減少したことにより、目標値を1,462円下回る結果となりました。
12	外来単価 ※算出式 $\frac{\text{外来収益}}{\text{延外来患者数}}$	12,600	12,800	B	高額な自己注射薬の処方や画像検査が増えたことにより、目標値を200円上回ることができました。

## 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【経営の安定性に係る項目】

単位：人、百万円

項番	項 目	元年度 目標値	元年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
13	医師数 (臨床研修医等も含む)	79	73	C	年度途中での異動等により、目標値を6人下回る結果となりました。
14	企業債残高	9,374	9,343	B	計画的な医療機器の更新により、目標値を31百万円下回ることができました。 今後も効率的かつ効果的な設備投資を行うことにより、企業債残高の縮減に取り組んでいきます。
15	一時借入金残高	1,123	1,913	C	資金不足の増加と連動して借入額が増加したことにより、目標値を790百万円上回る結果となりました。



## 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

### 【医療従事者の確保・育成】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
1	安定した医師確保	<p>大学医局を中心とした医師派遣機関との良好な関係を維持するとともに、北海道や地元医師会と連携し、今後も安定した医師確保に努めます。</p> <p>また、医師事務作業補助の内容を拡大するなど、医師の負担軽減措置を継続して取組みます。</p>	28年度～	C	<p>北海道大学や札幌医科大学などに医師の派遣をご協力いただきましたが、目標の医師数を達成することができませんでした。</p> <p>引き続き、勤務医負担軽減計画により進捗管理を実施するとともに、医師の負担軽減に努めていきます。</p>
2	看護師、コメディカルなど診療体制に見合う人材確保	<p>今後の診療報酬改定に伴い必要となる職種・人材については、庁内関係部署と協議の上、確保に努めます。</p>	28年度～	B	<p>令和元年度実施の看護師・薬剤師採用試験（令和2年4月採用）合格者22名のうち、19名が学資金貸与制度利用者で内訳は、看護師が16名、薬剤師が3名でした。</p> <p>令和元年度から薬剤師についても学資金貸与制度を拡充したことで、これまで欠員だった薬剤師を充足することができました。</p>
3	初期臨床研修医受入体制の強化	<p>2年間研修を行う基幹型の初期臨床研修医の定員は1学年6名としております。</p> <p>「研修医に選ばれる病院」であり続けることは、将来の医師確保にも繋がりますので、今後も研修医の受入体制を強化していきます。</p>	28年度～	A	<p>病院見学の際に、臨床研修医が院内を案内するなど、医学生が当院に親しみやすい工夫をしました。</p> <p>令和元年度（令和2年4月採用）は、当院で2年間研修を行う「基幹型」臨床研修医について、7名を確保（フルマッチ）しました。フルマッチは6年連続となっています。6年連続でフルマッチしている道内の臨床研修病院は、当院を含め6病院のみとなっています。</p>

## 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

### 【医療従事者の確保・育成】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
4	院内研修等による多職種連携の更なる推進	院内研修等により「横の連携」を強化し、部門間の様々な課題を共有できる環境づくりを推進していきます。	28年度～	B	令和元年5月22日に部門別発表会を開催しました。参加者は67人で、前年度の活動結果とともに、当年度の事業計画について各部門ごとに発表し、課題等の情報を共有しました。
5	認知症ケアチームなどのチーム医療の強化	従来からある「感染対策チーム」、「褥瘡（床ずれ）対策チーム」など、医師を中心とした多職種によるチーム医療を推進していきます。 平成28年10月からは、認知症患者に対する対応力や医療の質の向上を図ることを目的とした「認知症ケアチーム」の活動を開始しています。	28年度～	B	多職種によるチームで週1回以上の病棟ラウンドとカンファレンスを継続的に実施しました。 認知症対応力の知識・技術の修得のため、院内外の研修に参加しました。 1年間の介入患者数は1,346人で延べ13,999人に対応しました。
6	働きやすい院内環境の整備など	育児休業、育児短時間勤務制度の制度周知や、院内保育所の24時間保育の継続及び入退所条件の緩和など、「早期に復職しやすく、復職後も働きやすい」環境整備を行います。	28年度～	B	院内保育園における24時間保育及び生後57日目以降の乳児受け入れの実施、並びに育児短時間勤務等の制度周知により、医師をはじめとする病院職員の復職に繋がりました。
7	医療機関・介護施設等、多職種との情報交換会の開催	医療機関・介護施設等、多職種との情報交換会（egg）を開催し、地域における多職種協働の円滑化と連携強化を図ります。	28年度～	B	令和元年度は、医療現場で関心度の高い「人生の最終段階における意思決定支援」をテーマを取り上げました。 9月は基礎編、2月は実践編と2部構成の研修を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2月開催を中止しました。  9月18日開催 29機関 85人参加

## 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

### 【収入増加（維持）への対策】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
8	急性期一般入院基本料1（旧7対1入院基本料）などの施設基準の維持  ※平成30年改定で名称変更	急性期一般入院基本料1（旧7対1入院基本料）など「病院経営の根幹となる施設基準」を維持していくために、常に情報収集を行い、迅速に対応できる体制を維持していきます。	28年度～	B	地域包括ケア病棟を活用し、重症度、医療・看護必要度等の基準を満たし、急性期一般入院基本料1（旧7対1入院基本料）を維持することができました。
9	地域包括ケア病棟の活用	苫小牧市は、平成22年から超高齢社会となり、75歳以上の入院患者が増加して、在宅療養を必要とする患者も増えています。 このため、地域包括ケア病棟を活用するなどして、「急性期経過後に引続き入院治療を要する状態（ポストアキュート）の患者」と、「在宅や介護施設で療養中に症状が急性悪化した状態（サブアキュート）の患者」の受入れの拡大を図っていきます。	28年度～	B	令和元年5月より地域包括ケア科を中心に「在宅連携登録患者」の運用を開始しました。地域で在宅医療の提供を受けている方をあらかじめ登録することで、症状が悪化した場合、救急当番に関係なくスムーズに当院に入院する仕組みを構築することができました。安心して在宅療養が継続できるように支援体制を強化しました。
10	ハイケアユニット（HCU）の運用	地域包括ケア病棟の運用開始により、更なる活用が可能になった「ハイケアユニット」の利用を拡大し、質の高い医療を提供します。	28年度～	B	DPC対策部会やDPC通信等で、ハイケアユニット入院医療管理料について医師をはじめとする職員に周知するとともに、脳神経外科に関する入室基準の見直しなど、看護師を中心に医師と入退室に係る運用方法を変更しました。その結果、病床稼働率は、前年度よりも3.3%上昇し51.6%となりました。
11	かかりつけ医との連携強化	「顔の見える関係」、「信頼される関係」を構築する取組を行い、かかりつけ医との連携を強化していきます。	28年度～	B	令和元年度は、前年度より15か所多い、39か所の医療機関を訪問しました。そのうち38か所は医師が訪問し、医師同士の連携、結び付きの強化を図りました。 また、かかりつけ医とのミーティングを開催し、フォローアップシート（治療後の経過を記載するもの）やモバイル端末を活用した連携について協議し、一部の診療科で運用を開始しました。

## 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

### 【経費削減（抑制）への対策】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
12	医療機器の効率的で効果的な更新整備	今後、移転時に購入した医療機器及び施設設備等の更新が続くことが想定され、多額の更新費用が見込まれることから、更新時期や費用対効果も検証し、急性期病院として高度な医療を提供する役割を担いながら効率的で効果的な設備投資を行います。	28年度～	B	令和元年度は高額医療機器を購入したものの、院内代替品の活用や必要性の再検討、価格交渉を重ねた結果、固定資産取得費が前年度比で5,461万円減少しました。 今後も適正な更新計画に基づき、効率的な更新を行っていきます。
13	後発医薬品（ジェネリック医薬品）の拡大	国で示しています数量シェア目標が平成29年度に70%以上、平成30年度から平成32年度までの間のなるべく早い時期に80%以上とされていることから、できるだけ早期の目標達成に向けた取組を進めていきます。	28年度～	B	後発医薬品採用検討会議を定期的で開催し目標値を達成していますが、一方で常に新しい医薬品が認可されていることから、目標値を維持できるように取組を継続していきます。
14	材料費価格の適正化	医療材料費等コスト削減コンサルティング業者とともに、医療材料等の取引業者との交渉で病院経営にメリットとなるような有利な条件等を引出し、材料費等の削減を図ります。	28年度～	B	ベンチマーク等を活用し、医療材料の取引業者及びメーカーと価格交渉を行い、年間1,210万円を削減しました。
15	エネルギー診断等による光熱水費の削減	節水装置の取り付けやエネルギー使用量などを低減させることを目的とした省エネルギー診断業務委託を行い、効率的なエネルギー等の利用に向けた取組を実施します。	28年度～	B	令和元年度は契約電力を変更してコージェネレーションシステムの運転を改善したほか、蒸気配管切替による排熱利用率を向上させ、都市ガス使用量を削減しました。 エネルギー削減実績としては、省エネルギー基準値（24年度から28年度までの5年間のエネルギー使用量平均値）と比較して約9.6%の削減を達成しました。

## 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【その他】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
16	院内スペースの狭隘化解消	<p>入院前、入院中、退院に係る様々な相談をワンストップで受ける窓口として設置を検討している「入退院支援センター（仮称）」の開設スペースの確保や、医師数の増加に伴う医局スペースの狭隘化など、院内スペースの不足が大きな課題となっています。</p> <p>今後は庁内関係部署と協議を行い、増築等も含め狭隘化の解消を図り、患者サービスの向上と業務効率の改善を図っていきます。</p>	29年度～	B	<p>令和元年度は新医局棟が完成し、課題となっていた医局スペースの狭隘化を解消し、医師の勤務環境の改善を図りました。</p> <p>また、移転後の空きスペースの有効的な活用として、小児リハビリテーションスペース・患者サポートセンター・がんサロンの設置に向けた検討・準備を進めているところです。</p>
17	経営形態の現状と見直しの方向性	<p>現状の経営形態（地方公営企業法の一部適用）を基本としていきますが、経営基盤の安定化に向け、状況に応じては地方公営企業法の全部適用など最適な経営形態を検討していきます。</p>	29年度～	—	<p>当院の経営状況は、新改革プランを通して収益増収策や費用削減策などの取組を強化しているところですが、診療体制の変動や新型コロナウイルス感染症の予期できない流行による影響等で、計画どおりに資金不足額を解消していくのは厳しい状況です。</p> <p>現時点においては現状の経営形態（地方公営企業法の一部適用）を継続する考えですが、今後当院を取り巻く環境の変動に合わせて、制度面・運用面におけるメリット・デメリットを検証しながら、将来の経営状況を見据えて、ふさわしい経営形態を検討していきます。</p>

## 苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅲ

【毎年度の収支計画】

単位：百万円

項番	収益的収支	元年度 目標値	元年度 実績値	増減	自己評価・分析	
					評価	コメント
1	病院事業収益	10,858	10,483	▲ 375	C	目標値より下回りました。
2	医業収益	9,612	9,074	▲ 538	C	目標値より下回りました。
3	入院収益	6,260	5,769	▲ 491	C	目標値より下回りました。
4	外来収益	2,570	2,530	▲ 40	C	目標値より下回りました。
5	その他	782	775	▲ 7	C	目標値より下回りました。
6	医業外収益	1,215	1,378	163	A	目標値より上回りました。
7	特別利益	31	31	0	B	目標値どおりでした。
8	病院事業費用	10,887	10,876	▲ 11	A	目標値より下回りました。
9	医業費用	10,321	10,313	▲ 8	A	目標値より下回りました。
10	職員給与費	4,997	4,934	▲ 63	A	目標値より下回りました。
11	材料費	2,095	2,027	▲ 68	A	目標値より下回りました。
12	経費	2,302	2,510	208	C	目標値より上回りました。
13	その他	927	842	▲ 85	A	目標値より下回りました。
14	医業外費用外	520	508	▲ 12	A	目標値より下回りました。
15	特別損失	46	55	9	C	目標値より上回りました。
16	経常収支	▲ 14	▲ 369	▲ 355	C	目標値より収支マイナスが増となりました。
17	当年度純損益	▲ 29	▲ 393	▲ 364	C	目標値より純損失が増となりました。
18	内部留保資金	751	726	▲ 25	—	目標値より減となりました。

項番	資本的収支	元年度 目標値	元年度 実績値	増減	自己評価・分析	
					評価	コメント
19	資本的収入	752	1,157	405	A	目標値より上回りました。
20	企業債	300	289	▲ 11	B	目標値より下回りました。
21	他会計負担金等	451	861	410	A	目標値より上回りました。
22	その他	1	7	6	B	目標値より上回りました。
23	資本的支出	1,126	1,790	664	C	目標値より上回りました。
24	建設改良費	330	994	664	C	目標値より上回りました。
25	企業債償還金	754	753	▲ 1	B	ほぼ目標値どおりでした。
26	その他	42	43	1	B	ほぼ目標値どおりでした。
27	資本的収支	▲ 374	▲ 633	▲ 259	C	目標値より収支マイナスが増となりました。

28	その他資金変動額	▲ 273	▲ 115	158	—	目標値より下回りました。
29	単年度資金収支	75	▲ 415	▲ 490	C	目標値より下回りました。
30	累積資金収支	▲ 1,462	▲ 2,058	▲ 596	C	目標値より収支マイナスが増となりました。

31	資金不足算入対象外 流動負債	768	762	▲ 6	—	目標値より下回りました。
32	資金不足額	694	1,296	602	C	目標値より不足額が増となりました。
33	資金不足比率	7.2	14.2	7.0	C	目標値より不足比率が増となりました。